

音楽療法の視点から見た仙台市立病院合奏団 「とらいあんぐる」の活動報告

大森 智子, 長沼 廣*, 高橋 秀治**

はじめに

音楽療法は、欧米では半世紀以上も前に誕生した治療法である。資格認定された音楽療法士により、医療、福祉、保健、教育といった広い領域で実践されており、医療の場では緩和ケアのプログラムに組み込まれ、その役割も大きいとされている¹⁾。医療現場における音楽療法は、音楽療法士によって個人を対象に処方された音楽活動を継続的に行うことで成果が得られるものである。近代の音楽療法は第2次世界大戦を契機にアメリカにおいて大きく発展し、日本では1960年代に始まったとされる。仙台における音楽療法研究は、2002年に開始され、2004年からは東北大学病院で医療の場における音楽療法活動が実践された。仙台市立病院では「病院という患者の生活空間での音楽療法の実践と職員の親睦を深める」という目的で、1996年に仙台市立病院合奏団「とらいあんぐる」が結成された。発足後10年間の活動を示し、さらにアンケート調査の結果などから患者、家族、職員におよぼした影響について若干の考察を行ったのでここで報告する。

対象と方法

対象は仙台市立病院の入院患者とその家族、重度障害者難病ホスピス「太白ありのまま舎」、老人ホームの入所者である。

方法は入院患者対象の院内待合いホールでの定期コンサート、各病棟での訪問演奏、精神的不安を持つ患者や癌末期などの特定患者に対する個室

での演奏、他施設への慰問コンサートと合同演奏である。また定期コンサート後に演奏を聴きに来た患者に対してアンケート調査(資料1)も行った。

結果

主な活動は資料2で示すように院内待合いホールでのコンサートであった。過去10年の間に春のコンサートを4回、七夕コンサートを5回、秋のコンサートを10回行った。毎回100人程度の患者と家族が参加してくれた。

1) 定期コンサート：コンサート約1ヶ月前よりポスター(図1)掲示を行った。第2回秋のコンサートは河北新報の取材を受け、新聞にも取り上げられた(図2)。第3回は踊り隊を結成し、その年流行った曲を演奏し、踊りも披露したが、聴衆から視覚的にも楽しめたと評価された。第4回は弦楽四重奏も行い、多種のジャンルを取り入れた。第5回はTVコマーシャルなどで聞き慣れていた「明日があるさ」を取り上げた。この曲は様々な歌詞で演奏されていたが、仙台市立病院バージョンの替え歌を作り、歌詞カードとして配付し、聴衆にも一緒に歌ってもらった(資料3)。第6回では入院患者さんであった三味線の師範が、お弟子さんを引き連れて参加した。第9回はそれぞれの楽器の音色をシンプルに楽しんでもらう目的で、唱歌を多種の楽器で1曲ずつ独奏するコーナーを設けた。

2) クリスマスコンサート：待合いホールでのコンサートも行ったが、メンバーがハンドベル隊となり、クリスマスソングを3~4曲各病棟階の面会ホールまたは病室の入り口などで演奏した。全員白衣にサンタ帽をかぶり、サンタクロースやト

仙台市立病院医療技術部中央臨床検査科

*同 病理科

**同 中央放射線科

資料1 とらいあんぐるのアンケートにご協力ください

本日はコンサートにお運びいただき有り難うございます。

私達は、市立病院職員で構成しております院内合奏団です。医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、事務、調理師などいろいろな職種の間仲間が集まり、自前の楽器を持ち寄って院内でのコンサートを企画しています。今後の活動のはげみといたしたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。

質問1 年齢を教えてください（該当に○して下さい）

- 1) 10歳以下 2) 10歳代 3) 20歳代 3) 30歳代 4) 40歳代 5) 50歳代
6) 60歳代 7) 70歳代 8) 80歳代 9) 90歳以上

質問2 性別を教えてください（該当に○して下さい）

- 1) 男性 2) 女性

質問3 今回のコンサートで「～あぁいいな～」と思った曲に○を付けてください（演奏した順にかいてあります。何曲でも良いです）

1. おさかな天国
2. 里の秋
3. さくら
4. アズタムゴーズハイ
5. イパネマの娘
6. 黒いオルフェ
7. モーツァルト・メヌエット
8. チャール・ダッシュ
9. ふるさと
10. 翼をください
11. 酒よ
12. 津軽平野
13. 亜麻色の髪の乙女
14. 大きな古時計

質問4 貴方が聴きたい曲を教えてください。またご意見をおきかせください

() ()
()
()

回収は2階採血室入り口に用意した「コンサートアンケート回収箱」へ入れてください。11月3日まで箱を置いておきます。ご協力有り難うございます。

とらいあんぐる一同 問い合わせ 中検 大森 内線 3556

ナカイの着ぐるみも用意した。ハンドベルの演奏はクリスマスの雰囲気作りに効果的で、多数の患者の参加が得られた。

3) 個別訪問演奏；病棟の看護師から精神的に不安定になっている患者の情報を得て、希望があれば個室訪問演奏も行った。患者からのリクエストに答え、より癒しが得られる曲を演奏した。

4) 他施設への慰問コンサート：いくつかの施設との交流会、慰問コンサートを多数行った。中でも、重度障害者難病ホスピスである「太白ありのまま舎」の入居者とのジョイントコンサートは

8年間継続している。合同演奏会には入所者の6割程度が参加した。合同演奏会開始後、入所者たちが積極的に演奏会の練習を行うようになり、日常生活の張り合い、運動機能のリハビリに役に立った。また、仙台市内で行われ、バリヤフリーを目指す音楽祭である「とっておきの音楽祭」には、第1回から参加した。毎回、演奏前に入所者との交流・対話など社会活動も積極的に行った。また、有志で、特養老人ホームなどを訪れ、演奏会を行った。高齢の方が多いので、年齢に合わせた選曲を行い、日常生活の活性化や認知症への刺激



図1. 第1回院内コンサートポスター



図2. 河北新報記事切り抜き

資料2. とらいあんぐる 10 年年表

1996年	10月26日	第1回院内秋の文化祭コンサート
1997年	10月5日	耳鼻科入院患者さん個室スペシャルコンサート
	10月25日	第2回院内秋の文化祭コンサート
1998年	12月25日	婦人科入院患者さん個室スペシャルコンサート
	4月18日	第1回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
	9月15日	10階病棟敬老の日コンサート
1999年	11月3日	第3回院内秋の文化祭コンサート
	11月21日	泌尿器科入院患者さん個室スペシャルコンサート
	2月27日	光が丘スペルマン病院ホスピス訪問コンサート
	3月4日	9階面会ホールミニコンサート
	4月19日	消化器入院患者さんスペシャルコンサート
	5月16日	第2回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
	11月3日	第4回院内秋の文化祭コンサート
	11月10日	耳鼻科患者さんジョイントコンサート
2000年	3月3日	特養老人ホーム杜の里訪問コンサート
	3月10日	8階病棟面会ホールミニコンサート
	6月1日	7階病棟スペシャルコンサート
	6月18日	第3回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
	8月23日	8階病棟面会ホールミニコンサート
	9月14日	10階病棟敬老の日コンサート
	10月28日	第5回院内秋の文化祭コンサート
11月21日	9階病棟面会ホールミニコンサート	

- 12月22日 特養老人ホーム杜の里訪問コンサート
- 12月23日 第1回院内病棟移動クリスマスミニコンサート
- 2001年 3月7日 第1回院内ひな祭りコンサート
- 7月6日 第1回院内七夕コンサート
- 9月1日 第4回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
- 10月8日 第1回とっておきの音楽祭 2001
- 10月27日 第6回院内秋の文化祭コンサート
- 12月22日 第2回院内病棟移動クリスマスミニコンサート
- 2002年 3月5日 第2回院内ひな祭りコンサート
- 6月6日 第5回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
- 7月5日 第2回院内七夕コンサート
- 7月5日 東北大学緩和ケアセンター訪問七夕コンサート
- 9月22日 第2回とっておきの音楽祭 2002
- 10月26日 第7回院内秋の文化祭コンサート
- 12月17日 東北大学緩和ケアセンター訪問クリスマスコンサート
- 12月22日 第3回院内病棟移動クリスマスミニコンサート
- 2003年 4月9日 仙台市老人ホーム鶴寿苑訪問コンサート
- 5月17日 第6回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
- 6月1日 第3回とっておきの音楽祭 2003
- 7月4日 第3回院内七夕コンサート
- 7月7日 東北大学緩和ケアセンター訪問七夕コンサート
- 10月25日 第8回院内秋の文化祭コンサート
- 12月21日 第4回院内病棟移動クリスマスミニコンサート
- 2004年 3月11日 第3回院内ひな祭りコンサート
- 5月19日 仙台市老人ホーム鶴寿苑訪問コンサート
- 5月30日 第7回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
- 6月6日 第4回とっておきの音楽祭 2004
- 8月8日 第4回院内七夕コンサート
- 10月9日 フェステバル イン 上野山
- 10月23日 第9回院内秋の文化祭コンサート
- 12月18日 第5回院内病棟移動クリスマスミニコンサート
- 2005年 4月23日 院内お花見コンサート
- 5月29日 第8回太白ありのまま舎ジョイントコンサート
- 6月5日 第5回とっておきの音楽祭 2005
- 8月7日 第5回院内七夕コンサート
- 10月22日 第10回院内秋の文化祭コンサート
- 12月18日 第6回院内病棟移動クリスマスミニコンサート

男	女	おまかせ天国	星の歌	さくらのテーマ	As time ~	イバネマの鐘	美しいオルフェ	ダンスエト	チャール	ふるさと	翼をください	涙よ	津軽平野	夏景色の髪	大きな古時計
10歳以下															
10代	2	♪♪								♪	♪			♪	♪♪
20代	2	♪♪	♪♪			♪♪		♪	♪	♪				♪	♪♪
30代	1 2	♪	♪	♪	♪♪		♪♪♪	♪♪		♪	♪			♪♪	♪♪
40代	3	♪♪	♪	♪		♪♪	♪	♪♪♪	♪	♪	♪			♪	♪♪♪
50代	1 4	♪♪	♪♪♪			♪		♪♪	♪♪	♪♪	♪♪♪♪♪	♪♪♪	♪♪♪♪	♪♪♪	♪♪
60代	3 2	♪♪	♪		♪	♪♪	♪♪♪♪	♪♪	♪♪♪		♪	♪	♪	♪	♪♪
70代	1 1		♪			♪	♪♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪		♪
80代															
90歳以上															
不明	1	♪				♪	♪	♪	♪						♪
総人数		10	6	4	2	11	8	11	13	6	11	7	6	10	14

図3. アンケート回答集計結果

資料3. 明日があるさ (市立病院バージョン)

- | | |
|---|---|
| <p>1. いつもの駅は 五橋
白衣に着替えて 気合い入れ
優しく問診 明るく検温
笑顔で一日を
明日がある 明日がある
明日があるさ</p> | <p>4. どんなに山積み 洗濯も
熱が下がれば 苦になりません
食欲わいて 散歩もすりゃ
とっても嬉しいな
明日がある 明日がある
明日があるさ</p> |
| <p>2. いつものように やって来る
採血 血圧測定や
注射はいや 薬もいや
先生困り顔
明日がある 明日がある
明日があるさ</p> | <p>5. 入院決まった 人がいる
退院していく 人もいる
焦ることないさ 明日がある
明日があるさ
明日がある 明日がある
明日があるさ</p> |
| <p>3. 特効薬は 孫の顔
やっぱり安心 母の声
微笑み涌いて 鳴き声やんで
元気になってきた
明日がある 明日がある
明日があるさ</p> | |

など貢献した。

5) アンケート調査結果：第7回秋のコンサート後にアンケート調査を行った(資料1)。年齢、性別、演奏曲の評価に加え、感想を記載してもらった。22名の方から回答が得られ、回答者は10代から70代の方々が平均的な人数であった。演奏曲目については50代の患者の多くが、演歌志向であり、唱歌やクラシックは各年代問わず好まれたジャンルであった(表1, 図3)。

考 察

医療現場における音楽療法の、音楽療法士によって個人を対象に処方された音楽活動を継続的に行うことで成果が得られるものである。そのような音楽療法の歴史は大変古く、「神から出る悪霊がサウルに臨む時、ダビデは琴をとり、手でそれをひくと、サウルは気が静まり、良くなって……」と約3,000年前の出来事として旧約聖書に記されている²⁾。

近代の音楽療法の第2次世界大戦を契機にアメリカにおいて大きく発展した。1944年、ヴァン・

デ・ウォールは、全米の「病院音楽利用委員会」の委員長となり、第二次世界大戦期の画期的な音楽療法の発展につないだ。1950年には全米音楽療法協会(NAMT-National Association for Music Therapy)結成された。諸外国では、資格認定された音楽療法士により、医療、福祉、保険、教育といった広い領域で実践されている。特に医療の場では、緩和ケアのプログラムに組み込まれ、その役割が高く評価されている^{1,3)}。

日本での音楽療法は1960年代に始まったとされる⁴⁾。その後、1986年に日本バイオミュージック研究会(会長・日野原重明)が設立され、1994年には「臨床音楽療法協会」も発足した。そして2001年両者が統合され「日本音楽療法学会」が発足し、音楽療法を「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」と定義した⁵⁾。

仙台における音楽療法研究は、2002年東北大学医学部の市江教授の下に始まり、2004年6月から

表1. アンケート回答

感想・ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに演奏曲目毎演奏者の氏名も載せていただくとベター。 ・合奏団のみなさん本当に一所懸命取り組んでいる様子が素晴らしいと思いました。 ・司会の方は素晴らしいですね。声の調子が静かな中に演奏会の中に引き込まれる力がありました。 ・里の秋、ふるさと、酒よ、津軽平野などの歌は自分でも声を出せたのでよかった。 ・アンコールは大変良かった。素晴らしい雰囲気でした。 ・練習の成果ばつぐん！ ・音響装置の工夫をすればもっと盛り上がるのでは？ でも病院ですから？ ・楽しいコンサートをありがとうございました。これからも頑張ってください。 ・とても素晴らしく感動しました。チームワークがすごくよろしい。 ・ピアノとバイオリンを弾いた方特に素晴らしくよかったです。 ・これからもいっぱい聞かせてください。ホットな気分にさせていただき有り難うございました。 ・演歌歌う人もいればなお良いです。 ・人の心をひとつにさせていただけたと思う。 ・皆の希望を満たすのは難しいが、よりよい方向で頑張ってください。 ・土曜日の午後、ホットするひとときを過ごさせていただきまして本当に有り難うございました。 ・浅倉先生のスタイルも最高でした。 ・演歌の曲をもっと聞きたいです。 ・今日は大変楽しく聞かせていただきました。 ・口ずさめる曲がいいです。 ・木曜日に子供が入院し、日曜日に退院という間にコンサートが聴けて不幸中の幸い(?)でした。 ・暖かい雰囲気とても良かったと思います。芸達者な方が多いのにビックリしました。 ・お忙しいでしょうがこれからも続けてください。有り難うございました。 ・楽しくまたうっとり聞かせていただき和みました。毎月でもいいなあと思いました。 ・今年のほとんどを病院で過ごすことになってしまいました。でも、このコンサートは本当に息抜きになりました。 ・いろんな楽器の音色が聞けて良かったです。メンバー紹介があるとより親しみやすいかも知れません。 ・忙しいのに皆の為にありがとうございました。
--------	--

は東北大学病院で医療の場における音楽療法活動が開始された。2005年8月には外来診療も始まり、医学的音楽療法に関する研究・教育・診療の全ての体制が整った。

そのように臨床の現場で音楽療法が注目され始めるなか、1996年に仙台市立病院合奏団「とらいあんぐる」が結成された。結成の目的は、病院という患者の生活空間での音楽療法の実践と、職員の親睦を深めることであった。「とらいあんぐる」創設時は患者に及ぼす影響など深く考えられなかったが、10年間の活動をふまえ(表1)、さらに

アンケート調査の結果などから患者、家族、職員におよぼした影響について考察した。

病院を入院患者の生活の場として考えた場合、食事をはじめとする時間の制約、プライバシーの制限などのストレスも多く、季節感も欠如している。春、夏、秋、冬に「ひな祭りコンサート」「七夕コンサート」「秋の文化祭コンサート」「クリスマスコンサート」を開くことで、季節感を味わってもらうことが出来、またその年の世情も反映する曲を演奏することで社会との繋がりを確認することが出来ると思われた。季節感という視点から

は、七夕とクリスマスに力を注いだ。七夕コンサートでは演奏者が浴衣を着たこともあった。また、患者や家族に短冊を配布して願い事を書いてもらうという企画は予想以上の反応があった。管財系の協力と多くの職員の協力を得て、現在は仙台七夕の飾りを待合いホールに1ヶ月据え置くことができるようになっている。クリスマスコンサートは「とらいあんぐる」のメンバーがハンドベルを持って全病棟を訪問する形態をとっている。サンタクロスやトナカイの着ぐるみを着たりサンタ帽をかぶっての移動コンサートは、患者・家族の笑顔を誘い出すことに成功している。

ありのまま舎との合同演奏会では入所者の約6割が参加し、不自由な手を使い、打楽器を演奏し、また、寝たきりの入所者はベッドのままで参加した。演奏会開始以前は多くの入所者が何かを一緒にやることは少なかったが、年2〜3回の演奏会のために毎週練習をする目標が出来たと施設から評価された。この合同演奏会は8年間継続しており、更にバリアフリーを目指す「とっておきの音楽祭」には第1回から合同で参加している。入所者の発表の場であり、外出の機会にもなっているこの活動は、入所者の活性化に繋がり、音楽療法の可能性を示していると思われる。老健施設などの他施設への慰問コンサートでは、施設の特徴や入居者の年齢に合わせた選曲を心がけた。楽器を目の前にして懐かしい曲を聴くことは大きな刺激となり、このような演奏会や多種の慰問活動が、入所者の健康維持や日常生活の活性化に繋がることが望まれている。

院内コンサートは病棟訪問を含めても年数回、不特定多数の入院患者と家族を対象としているため、具体的な治療成果を得ることは難しい。不特定多数を対象にしているため、各コンサートの選曲を年齢、趣味などに偏りがないように工夫しているが、個人の好みなど選曲はたいへんである。しかし、各コンサート後の感想では概ね良い評価をもらい、継続することを望まれている。稀に長期入院患者が毎回のように聴きにきてくれるので、毎回新しい企画を盛り込んで、マンネリ化しない

ように努力している。具体的には、観客がスズやタンバリンで演奏に参加したり、歌詞カードを配って歌ってもらえるようにしたり、さらに踊り隊を結成し視覚でも楽しめ、座っていても踊れるようなアレンジを試みた。待合いホールでのコンサートへの参加者が毎回100名程度あるということは、「とらいあんぐる」の活動が入院生活のストレスを解消し、単調な入院生活に彩りを与えるものになっていると考える。将来的には病院内にもコンサートや他のイベントが可能な多目的ホールが併設され、音楽療法をはじめとする西洋医学以外の様々な療法が患者の回復に寄与できる日が来ることを切に望んでいる。

ま と め

音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムは、脳の活性化、呼吸の調整、手足の運動による血液の循環や代謝をコントロールする作用をもつといわれている⁶⁾。「とらいあんぐる」の活動は、音楽を聴くこと、さらには聴取者を歌唱や演奏する側へ誘導することによって、受動的または能動的音楽療法効果を期待するものである。現在はその効果を患者の表情などから感じ取るしかない。治療効果の科学的実証が今後の最大の課題である。またアンケート調査による院内コンサートの開始時間、内容、体調への影響などの分析も重ねる必要を感じている。

文 献

- 1) 日野原重明：音楽の癒しのちから、春秋社、東京、pp. 19-39, 1998
- 2) 旧約聖書サムエル記上 16章 23節
- 3) スーザン・マンロー（進士和恵訳）：ホスピスと緩和ケアにおける音楽療法、音楽之友社、東京、1999
- 4) 桜林 仁：新しい芸術心理学の立場、生活の芸術、誠信書房、東京、1989
- 5) 村井靖児：音楽療法の基礎、音楽之友社、東京、pp. 11-18, 1998
- 6) 村井靖児：音楽療法の基礎、音楽之友社、東京、pp. 47-59, 1998